



# 長野県難聴児支援センター ニュースレター

平成 29 年  
第 14 号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

昔から変わらず子どもが夢中になる冬の遊びに「コマ回し」があります。お正月の歌詞にもなり、この時期、幼・保育園でよく目にする光景です。ほどけないように紐を巻くことにひと苦勞。うまく投げるのにひと苦勞。せっかく苦勞して巻いても、一瞬で終わることもしばしば。巻いては投げ、巻いては投げ…。この巻くという手間を省いた「ベープレード」も流行りましたが、やっぱり子どもは手間がかかるコマに夢中になります。巻けるようになった自信と、回せるようになった達成感。「手間を楽しむ」「あせらずあきらめず」…子どもと「コマ回し」に教えられる冬のひとコマ。



## 12月「ファミリーセミナー」開催

12月9日(土)第2回のファミリーセミナーを開催しました。今回の講師は、信州大学医学部附属病院で、小児難聴を主に診ている宮川麻衣子先生です。

- ・「きこえの検査」の見方
- ・補聴器や人工内耳の活用
- ・ことばに結び付く語りかけ 等

診察室で伝えられているけど、なかなかパッと理解できないことも、丁寧に、具体的なお子さんの姿と資料を基に学ぶことができました。

宮川先生から

「きこえ」については私たちドクターが、「ことばの発達」については言語聴覚士が、「子どもの成長」に伴うことは療育支援員が、お互いにチームを組んでサポートします。何か困ったことがあれば、いつでも声をかけてください。とのお話があり、お父さんお母さんが何度もうなずいていました。

きこえについて学ぶことは、我が子の世界、子どもの感じ方や可能性を学ぶことにつながります。「知ることから始めましょう」という宮川先生のお話しに勇気をいただきながら、また一緒に子どもを見つめて、前を向いていけたらと思います。

「こんなこと知りたい」などのリクエストがあれば、お寄せください。





## 新生児聴覚スクリーニング 前期(4月～9月)実施状況

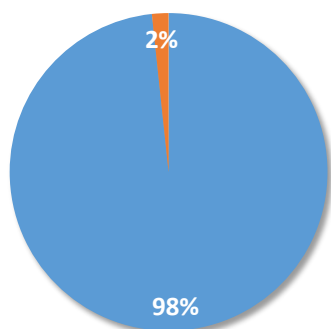
難聴児支援センターでは、県内の新生児聴覚検査状況の把握に努めております。

前期(4月から9月まで)の実数は以下の通りです。(現在の報告率 95% ; 39/41 施設)

対象者数	7,943人	◇実施率	98.8%
未実施数	93人	◇確認検査の割合	1.7%
新スク検査数	7,850人	◇要再検査の割合	0.6%
確認検査数	132人		
要再検査数	51人		

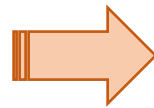
「新生児聴覚検査」を受けた赤ちゃんは 7,850 人です。残念ながら 93 名の保護者の方は検査を希望されませんでした。より多くの保護者の皆様に、難聴早期発見へのご理解を働きかけてまいります。

新スクの結果から入院中に改めて産科で行う「確認検査」を 132 名が実施し、そのうち 51 名の赤ちゃんが、さらに詳しい検査をするべく耳鼻科施設へとつながっています。

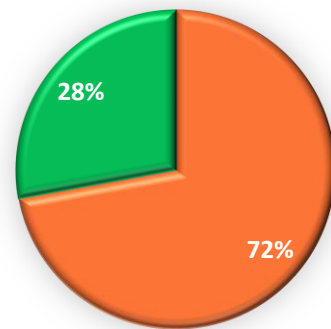


■ 新スクパス ■ 要確認検査

前期 新生児聴覚スクリーニング結果の割合



2%の確認検査  
その結果は…



■ 確認検査パス ■ 要再検査

前期 確認検査結果の割合

100 人に 2 人くらいの赤ちゃんが「退院前にもう一度聞こえの反応を見てみましょう」と確認検査を行い、確認検査の結果、3 割ほどのお子さんが「耳鼻科でもう少し詳しい検査をしてみましょう」と検査の継続を紹介されています。この「再検査」には、両側の難聴の他、一側難聴、外耳道閉鎖など様々ありますが、「詳しく調べる」ことで、「赤ちゃんにあった子育て、音あそび、語りかけ」へと一歩踏み出すことにつながっています。

こうした検査結果の把握から、保護者の皆様への説明や見通しへとお役に立てたらと思います。

お忙しい中、実施報告にご協力いただいている各施設の皆様ありがとうございます。

※1 月には「10 月～12 月」のご報告をよろしくお願い致します



## 支援センターより 『ことばで遊べる絵本』のご紹介

寒い冬。お子さんと一緒に絵本を楽しむ家庭も多いですね。今回はちょっと変わった「遊べる絵本」をご紹介します。読み聞かせるのではなく、絵本のことばに従って実際に自分の指や手を動かす絵本。子どもが絵本に参加できるので、ページをめくって親子でやりとりしながら「書かれていることが分かる＝読む」を体験できる絵本です。いろいろな絵本がありますが、一緒にちょっと遊んでみませんか。

### 「パペット スノーマン」

レイモンド・フリッグス 作 (大日本絵画)

かわいいスノーマンに手を入れて動かすことができる絵本です。「こんにちは」とペコリ。「帽子とお鼻をさわって」でモゾモゾ。「手をたたこう」でパチパチ。最初は大人が動かして、次は子どもが自分でスノーマンを操って絵本の世界を楽しみます。スノーマンのかわいさに、いろいろな動きを自分で考えて、自分で考えたお話しをおしゃべりしてくれます。この季節にお薦めの一冊です。



### 「おかいもの おかいもの」

さいとう しのぶ 作 (ひさかたチャイルド)

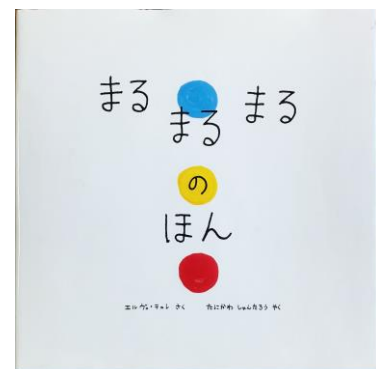
子どもが大好きな「おかいものごっこ」を楽しめる絵本です。「きゅうりをカートにいれましょう〜♪」で、商品の中からきゅうりを選んで入れる真似をしてもらいます。すると、次のページではきゅうりがカートに入っている！いろいろな食材を選んで、途中でハプニングもあるけど、主人公のカエルくんとお話ししながらお買い物ごっこを楽しめます。親子でお料理も一緒に楽しめますよ！



### 「まる まる まる の ほん」

エルヴェ・テュレ 作 谷川俊太郎 訳 (ポプラ社)

作者のコメントより「これは読む本ではありません。まるで生きているような、まるを使って遊ぶ、まるつきり新しい遊びの本です」このコメントの通り、ひとつの「まる」が次々に変化して、まるで手品を見ているような絵本です。「押す」「こする」「左」「傾ける」など、いろいろなことばを駆使しているので、一緒に確認しながらページを進むことができます。何度も繰り返し楽しめる絵本です。





## 第3回 ファミリーセミナーのご案内

### ことばを育てる ～子どもとのやりとり・語りかけ～

- 1 日時 平成30年 1月27日(土) 午後1:00～2:30
- 2 場所 長野県難聴児支援センター (松本旭町庁舎2階『多目的室』)
- 3 講師 **北野 庸子先生** (信州大学医学部附属病院人工内耳センター)
- 4 内容
  - ・赤ちゃんへの語りかけを楽しむ
  - ・ことばのもとになる遊び、やりとり
  - ・年齢に応じた語りかけのポイント など
- 5 参加費 **無料**

※事前に電話等でお申し込みください



## みみよい情報

### ◇補聴器の管理 「電池チェッカー」



毎日補聴器を着けられるようになり、補聴器の生活に慣れてくると「電池が終わった」ことを教えてくれます。ただ、子どものうちは朝の電池チェックも必要になります。電池の残量を液晶の目盛りで知ることができます。コンパクトで持ち運びにもかさばりません。子どもと一緒に「どうかな?」と確認する習慣にするのもいいですね。補聴器店などで販売しています。

## 長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

支援療育員：丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等  
お気軽にご連絡ください

